

群馬県内企業の設備投資動向調査

群馬経済研究所 主席研究員 伊勢和広

～ 要 約 ～

1. 群馬経済研究所が群馬県内企業を対象に実施したアンケート調査の結果では、2019 年度に設備投資を実施した企業(年度内の実施予定を含む、以下同様)の割合(全産業)は 18 年度比 8.9 ポイント増の 72.2%となった。20 年度は 52.7%の企業が設備投資を計画していると回答した。
2. 19 年度に設備投資を実施した企業の割合を業種別にみると、製造業では「輸送用機械」、「はん用・生産用・業務用機械」、「化学・プラスチック」等が、非製造業では「医療・介護」、「サービス業他」等が、それぞれ高い実施割合となっている。
3. また、従業員規模別にみると、規模が大きくなるにしたがって実施割合が高くなる傾向がみられ、20 年度計画も同様の傾向にある。
4. 19 年度の 1 社当たりの設備投資額は、前年度比 0.9%増の 1 億 1940 万円となった。業種別にみると、製造業では、「輸送用機械」、「化学・プラスチック」で、また、非製造業では「小売業」で投資額が 3 億円を超えている。また、1 社当たりの設備投資額を従業員規模別にみると、「100 人以上」の規模の企業の投資額が突出して大きい。
5. 19 年度の設備投資内容を企業数ベース(実施割合)でみると、製造業では「生産関連機械の購入・更新」が、非製造業では「車両運搬具の購入・更新」が最も多かった。一方、金額ベースでみると、製造業では「生産関連機械の購入・更新」と「工場・店舗等の新設、増改築」が上位となり、非製造業では「工場・店舗等の新設、増改築」が突出している。
6. 19 年度の設備投資内容ごとにそれぞれの投資目的をたずねたところ、「生産性向上・生産効率化・省力化」や「老朽化対応」を挙げる企業が多くみられた。
7. 老朽化した設備の更新にとどまることなく、人手不足解消にもつながる「生産性向上」に役立つ生産関連機械やシステム・ソフトウェアなどへの投資に、企業が積極・計画的に対応していくことが望まれる。

キーワード：設備投資額、設備投資内容、設備投資目的、工場・店舗新增設、生産関連機械